

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900432		
法人名	社会福祉法人京都眞生福祉会		
事業所名	グループホーム 京都指月の郷 East館 明月		
所在地	京都府京都市伏見区泰長老176番地5		
自己評価作成日	令和元年11月12日	評価結果市町村受理日	令和2年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosoCd=2690900432-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvosoCd=2690900432-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地一「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	令和元年 12月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民も参加可能な行事の企画等を通じて地域との繋がりに力を入れている。グループに病院があり医療面でも家族や本人が安心して過ごせるように支援している。日中、看護師が常勤しており夜間のオンコール体制をとっており利用者、職員共に安心して過ごせている。職場環境においても、研修の充実、面談の実施、労働時間等、働き甲斐のある職場作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都指月の郷East館は、国道24号線沿いの御香宮の近くにあり。地域密着型特別養護老人ホーム、グループホームWest館、小規模多機能型住宅介護、ショートステイなど協働して運営されている複合施設です。介護部医務課を設置し常勤看護師を配置しており、特に緊急時の対応には家族から感謝されています。運営推進会議には、多くの家族が参加し意見や疑問などを発言して運営に参加されています。事業所合同の秋祭りには近隣住民に呼びかけて家族も協力参加しています。年2回「家族アンケート」を行い家族の意向をサービスに反映させています。事業所は団地の自治会への加入意思を表明し、イマジンの古紙回収に協力し、消防団に加入するなど地域に積極的に溶け込み、地域や家族との良好な関係を構築しています。福祉避難所の役割を担い災害時に地域の方々も受け入れる安心拠点となっています。入居者の思いや意向を受け止めてそれをかなえる支援に努められており、入居者は穏やかな明るい表情で過ごされています。各委員会の年間活動や定期的な内部職員研修の実施、外部研修の奨励など職員の育成に努められる一方、残業や休暇への配慮もあり学びと働きやすい環境を提供し職員を大事にされている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットに法人理念を掲示している。また法人理念に基づきユニット独自の理念と目標を立て実践している。	法人の理念に沿って「利用者様の彩りある暮らしの充実を目指し全職員が同じ方向で考え行動していきます。」との施設理念を策定している。更にユニットごとに理念を掲げ、理念達成のため3つの目標を作成し日々実践している。これらは職員全員で話し合って作成しており職員の浸透度は高い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方にエレクtoonや折り紙教室を行なって頂いたり、地域に開けた秋祭りを行っている。近隣のイマジンの夏祭りやスカイフェスタに作品の出展を行なっている。	マジックショーや三味線、フラワーアレンジメントなど多くの地域のボランティアを受け入れて入居者は楽しみにしている。今年の合同秋祭りは、雨になり地域の方々の参加は少なかったが、入居者は地域交流ホールで家族の協力もあり印象的な一日を楽しく過ごしている。消防団に加入し活動している。自治会加入の意思を表明し積極的な地域連携に努め良好な関係を構築している。高校生や支援学校の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後、認知症カフェを通して地域住民も参加出来る行事や認知症講座を実施していく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、グループホーム内の取り組み、行事や研修報告、ヒヤリハットや事故事例などの報告、地域との繋がりがもてる意見交換を行っている。	会議には、家族(3~4名)や民生児童委員、団地自治会役員、障がい者地域共生拠点イマジン、地域包括支援センター職員、職員などが出席している。事業所からは、運営状況、2019年度上半期家族アンケート、各委員会(8委員会)の活動報告、前回会議からの課題報告、案内事項などを伝えている。家族からは、「各館エレベーターが一機だが防災対策には問題はないのか？」や緊急搬送時の対応に感謝を伝えている。地域交流のきっかけにイベントを活用する提案に対し、ちらしは団地内の掲示板(34か所)使用の協力が話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を市の窓口に届けている。相談事やわからないことは直接聞いたり電話で確認している。市からの研修案内を受け参加している。	介護保険更新認定の手続き代行や運営推進会議の議事録の持参などで行政に足を運ぶ他、入居者の新規受け入れに関する行政とのやり取りもある。2カ月に一度の伏見の事業所連絡会や居住系サービス部会などで市町村と意見交換をする機会がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修時に研修を開催し周知している。身体拘束の事例はない。	毎月開催している身体拘束委員会の結果を持ち寄り、12月より「身体拘束適正委員会」を3ヶ月ごと開催している。「身体拘束適正化指針」を定め指針に照らして検討している。職員研修は、毎月実施する研修計画時にプラスして毎月実施し、言葉の拘束(スピーチロック)についても意識を高めて支援している。玄関の施錠については、京都アニメーションの事件から、無差別テロなどを心配する家族の声を受けて10月から事務所が無人になる場合は一時施錠に変更している。	

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館(明月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修時に研修を開催し防止に努めている。事例を出し全職員に何故虐待が起こるかを考える時間を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修時に研修を行なっている。また外部研修にて成年後見制度の受講を行い、他職員に閲覧を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明し同意を得ている。項目ごとに噛み砕いて説明し、不安が残らないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や運営推進会議、介護計画の見直し時、面会時等にも意見や要望を聞くようにしている。	入居者の個人的な意見や要望は、できるだけかなえるよう支援している。運営推進会議には、多数の家族参加があり「エレベーターは1機だが防災対策としては問題ないのか？」に対して9月の防災訓練時にはこの意見を考慮しながらおこなっている。「East館の事務所は不在な事が多く相談し難い事と防犯上も良くないと感じている。」の発言に対し改善策を検討し運営に反映させている。提供しているサービス内容について半期ごとに家族の意見を把握する「家族アンケート」を実施し集計・総括して事業に反映させている。	「意見箱」この名前は固く考えすぎてまいがちではないでしょうか。なんでも受け入れる姿勢なれば、見るだけで笑みが生まれ投稿してみたくなるようなネーミングをみんなで考案されてははいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やサービス会議の場で提案できる機会を設けている。年2回の人事考課の時や希望時に面談の機会を設け意見を聞いている。	全職員が参加する全体会議やサービス会議などの場で提案や意見が多くある。人事考課の面接時にも1対1で希望や悩みなどを聞いている。ユニットリーダーは職員の様子に気配りや声掛けをしている。「サンキューボード」を発案し、職員同士の感謝の気持ちや優しいメッセージなどを綴って貼っている。嬉しかったことや感心したことなどを伝えて相互のモチベーションを高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場づくりとして人事考課制度を導入している。向上心を持って働けるように外部研修でも自分の興味のある研修に参加出来るように情報提供し参加を促している。また交流会を設け職員が交流出来る場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはオリエンテーションシートを活用し教育を行っている。内部研修を毎月開催しており、外部研修への参加も呼びかけ多くの研修参加に繋がっている。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館(明月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イマジンさんの夏祭りに参加させて頂いたり、秋祭りの際にはお手伝いに来て頂いている。 特別養護老人ホームや小規模多機能と合同でイベントを開催している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉をそのまま記録に残し思いを知り、要望を職員間で共有している。本人の意向や家族の意向をできる限り実現しているよう周知し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあったときだけでなく、普段の面会時に声をかけ近況等を伝えるようにしている。その都度細かなことでも家族に連絡し話ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族、職員の意向や希望を話し合う機会を設けている。訪問診療や訪問歯科、訪問理美容のサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に掃除や洗濯、食器洗いをやっている。時には利用者様に職員の悩み事も聞いて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、家族、職員の意向や希望を話し合う機会を設けている。入居者の思いや希望と一緒に考え、家族にも本人の気持ちを伝え、出来る限り偏りのない支援に繋げる努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔なじみの場所に一緒に買い物に行ったり、神社へのお参り、なじみの場所へドライブに行ったりと支援している。	入居者には、以前この周辺の在住者であった方もある。城南宮、御香宮や大手筋商店街などは馴染みの場所であり頻りにドライブや散歩で訪れている。大手筋で商売をしていた方は、以前の客や知人からの声掛けもあり懐かしそうに話されている。入居者が望む馴染みのショッピングモールなどへのドライブ外出もある。家族や愛犬に会うための自宅外出や馴染みの美容院へ行ったり、家族とお墓参りに行くなど、それぞれの馴染みの人や場所との関係継続の支援に努めている。	

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館(明月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	洗濯たたみや食器洗いを一緒にしていただ いたり、歌やおやつ作り等を共に行って頂き 関わり合いの場を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も家族から情報を得てい る。必要に応じて介護保険のことなどの相 談や助言も行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日頃の会話の中で得た情報を記録に残し、 情報の共有をしている。モニタリングやアセ スメントの中でご本人・ご家族の意向や思い を聞きケアプランに取り入れている。	入居前に訪問し、本人や家族からその人の生活 歴や心身の状況、今後の生活への意向などを聞 き取り居宅介護支援専門員からの情報も踏まえて アセスメントしている。入居後の状況や情報なども 把握しケアチェック表に(ワイズマンの書式)に転 記している。家族の面会時に聞き取った情報も介 護記録に残している。意思表示が難しい入居者に は家族に聞いたり表情や仕草から推察して対応し ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人の話やご家族の面会時に聞き取りを 行うなどこれまでの生活の把握に努めている 。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し必要 時カンファレンスを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や要望を取り入れ 介護計画を作成している。担当者会議には 看護師にも参加してもらい意見をもらって いる。	月1回のユニット会議時にケア会議も行いモニタ リングをしている。これをもとに3ヶ月ごとに介護計画 (短期目標3カ月、長期目標6か月)を作成しサー ビス担当者会議を開催している。会議には本人や家 族、看護師、介護士、時には栄養士も参加し話し 合って合意の下で介護計画を実践につないで いる。日々の生活記録に介護計画に沿ったサー ビスの提供状況を詳細に記録している。介護、医療、 栄養などバランスの取れた介護計画を作成して いる。入居者の状況変化に応じて介護計画を見直し 現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常の様子に関すること、ケアプ ランにかんすることで分けて記録し、日々の 記録から問題点や様子を共有でき、かつ プランの見直ししやすい記録を残すよう にしている。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館(明月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	用事で家族様の面会が難しい時など、代わりに衣類の購入を行ったりしている。受診に家族様も行きたいと話された時は家族様も一緒に送迎出来るよう配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者と職員で時代をテーマにした作品、京都タワーやスカイツリーを紙粘土などで作りSKYフェスタに出展を行なった。地域の御香宮へのお祭りへ参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を行っている。他科受診の希望があれば受診を行い、ご家族の希望で訪問歯科にも往診に来てもらっている。	入居者は、協力医療機関(京都武田病院)から月2回循環器内科医師の往診により健康管理を受けている。協力病院受診時の送迎は、ホームが支援している。介護部医務課を設置し看護師を配置している。協力医療機関とは、電子カルテで連携し迅速な伝達と情報を共有している。必要時に協力歯科クリニックの訪問を受け、歯科衛生士の定期的な訪問を受けている方が1名ある。職員は歯科衛生士の指導を受けて毎日3回入居者の口腔ケアを支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員への緊急連絡体制を整えている。また訪問診療の際は看護職員も立ち合い実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関である恵心会京都武田病院と医仁会武田病院と協定書を締結している。入退院時には地域連携の担当者と密に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に記載し同意を得ている。	事業所は、「看取り介護・重度化した場合の対応に係る指針」を策定し入居時に説明している。入居者がどのように最期の場を迎えたいかの思いを聞き「事前意向確認書」や「看取り介護についての同意書」を取り交わしている。現時点では協力医療機関での終末期受け入れや在宅での看取りを想定しているが、ホームでの看取りに関しては今後を見据えて職員の研鑽に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし普通救命講習を受けている。緊急時の対応についても手順書を定めフローチャートの活用、研修も行い冷静に行動できるように努めている。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館(明月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し運営推進会議でも防災について協議している。	火災による避難訓練を年2回(昼、夜)消防署立ち合いで実施している。地域の消防団に入り連携を深めている。市の福祉避難所に指定されているので約1週間分の食料備蓄をしている。運営推進会議において自然災害時の避難について協議している。外の掲示板にAED設置事業所であることを大きく掲示し地域にPRしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体研修で権利擁護の研修を実施している。それぞれの人格や性格、認知症の違いを理解し、認知症があってもその人らしくを尊重し、今できることを見つけていけるように努めている。	「職業倫理及びプライバシー保護」の内部研修や「権利擁護について」全体研修して、それぞれの人格やその人らしさを尊重することなどに努めている。居室には、ノックして入室し名前を呼んでいる。食事がこぼれる方には、職員と同じ前掛けを用いて差別化に配慮している。自尊心やプライバシーを傷つけないように努めて支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなくご本人に意思確認をし判断してもらっている。買い物の希望時は時間を調整し外出できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにあわせた起床臥床時間や食事の好みをできる限り対応している。また散歩に行きたいや入浴をしたいなどの希望にも臨機応変に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や散髪時の好みの髪型への聞き取りを行うなど支援している。季節の変わり目には家族にも協力してもらい衣替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と共に食事準備や後片付けを一緒に行っている。また、食べたいものを聞き、食行事やおやつレクを行っている。	メニューは、入居者の嗜好調査をもとに管理栄養士が計画し、直営の厨房で調理して提供している。ごはんのみユニットで炊き、入居者はその炊ける匂いを感じ取っている。朝食は、週5日パン・2日ごはんとしているが、パンからごはんへの変更希望を受け入れている。入居者は職員と一緒に食事の準備や後片づけをしている。時には、食器洗いをされる方もある。食レクでは、たこ焼きやプリン、炊飯器でスポンジを作ってデコレーションをするとみんな楽しく笑顔になっている。寿司外食や好みの出前を取って食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎食記録し残している。食事量や水分量が足りない時は補食を用意したり好みの飲み物で水分が摂れるように促している。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館(明月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声を掛け口腔ケアを行って頂けている。自力でのケアが難しい方には介助で行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを知り、その方にあった時間に声掛けトイレ誘導している。	一人ひとりの排泄状況をチェックして把握し、適時トイレでの排泄を誘導支援している。排泄のリズムを把握して誘導することによりほとんど失敗がなくなった事例がある。誘導時は、他に分からないよう小声で声掛けしたり、目線や仕草などのサインを見逃さないように努めている。現状は、自立者1名、布パンツにパット使用1名、他はトレーニングパンツを用いている。夜間のみポータブルトイレを用いる方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取できるように、好みの飲み物を用意したり、トイレへ座る機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおまかな入浴日は決まっているが、ご本人の希望に合わせて変更し入って頂けている。	毎日2~3人の入浴を計画している。日にちや時間はできるだけ入居者の希望に添うように努めて支援しているが、行事などの関係で希望通りにならないこともある。週2回の入浴を確実に実施している。こだわりの入浴剤やシャンプーリンスを使っている方もある。ゆっくり入って貰っているので自ら本音を話されることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子をみながら離臥床を行って頂けている。夜間は各々のペースで居室に戻られ休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変われば薬剤情報から把握し、副作用がでないかを記録し様子を見ている。連絡ノートを使用し情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きだったこと、趣味が継続できるように聞き取りを歌などを実施して頂けている。新聞購読を行い読んで頂けている。		



京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館(明月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいと言われた場所への外出や買い物、地域の情報を収集し参加できそうな行事に参加している。また、季節を感じてもらえるような外出計画を企画し実施している。	入居者の希望を聞いて、団地内の散策や隣接のWest館屋上庭園、近くの大手筋商店街への買い物散歩や喫茶店、御香宮の祭りや城南宮参拝、久御山の大型ショッピングモール等々日常的に外出している。年間行事計画には、入居者の希望する場所を聞きとり花見や紅葉ドライブ外出を取り入れて実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時の支払いはご本人に行ってもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が家族様と連絡を取りたいと話された時は連絡を入れやりとりが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の業者に入って頂き共用空間の清潔に努めている。廊下やリビングを歩きやすいように余計な物を置かないようにしている。	木目調床の広いリビングは、南向きで採光が良く明るい。鉢植えの「もみ」の木に入居者と職員が飾り付けたクリスマスツリーが華やかで季節感満載である。入居者の体格に応じて2段階調節可能なテーブルを設置し、足台も用いて安定した座位保持を工夫している。入居者は、厨房から運ばれた食事を職員と一緒に器に盛りつけたり配食をして機能や能力を発揮している。エアコンと加湿器で調節した快適な環境で過ごしている。リビングや廊下などの床面は、入居者の移動上の障害を避ける配慮から物を置かずにすっきりと整理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なじみの席でゆっくりと過ごされたり皆で集まりゲームをしたり行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていたなじみの家具やテレビ、コップなど持ってきて頂き、自宅に近い居室づくりに努めている。	居室には、エアコン、防災カーテン、介護用電動ベッドを備えている。入居者の状況により超低床ベッドを提供している。入居者は、レトロな家具を持ち込みその上にテレビや愛犬の写真、家族写真などを飾って癒されている。愛犬と一緒に寝ていた習慣なのか？枕元に犬の縫いぐるみがある。自宅にワンちゃん外泊もしている。位牌を持ち込み手を合わしている方もあり、それぞれの思で居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	机やいすによる動線の確認、行事のお知らせやカレンダーを活用し自立した生活が送れるようにしている。		